

様式第3号(第4条関係)

会 議 録

- I 会議の名称 南信州まつかわ観光局(仮称)設立検討委員会[第5回]
- II 開催日時 平成29年6月21日(水) 16:00~17:30
- III 開催場所 松川町役場2階大会議室
- IV 出席者氏名 南信州まつかわ観光局(仮称)設立検討会委員
(欠席:小沢文人委員、唐澤邦博委員、佐藤清委員、大石和幸委員、中田博万委員)
高砂樹史観光交流地域づくりアドバイザー
田中学産業観光課長、片桐雅彦観光局設立準備室長、
北沢秀公清流苑総支配人、宮島公香商工観光係長、
柳原猛地域おこし協力隊員、間瀬紋子地域おこし協力隊員
田辺哲哉観光局設立準備室主査
- V 議題 別紙参照
(公開非公開の別)
- VI 非公開の理由 -
- VII 傍聴人の数 0人
- VIII 会議資料の名称 別紙参照
- IX 審議の概要 下記のとおり

1. 開会 [片桐雅彦観光局設立準備室長]

2. 挨拶 [鋤柄富男委員長、深津徹町長]

3. 高砂アドバイザーの話

(質疑)

Q 様々な体験を提供しようとするけどどれだけの採算がとれるかということに
尽きる。何をやっても宣伝で行き詰まる。どんな方法がありうるのか?

A 単なる収穫体験ではリピーターにならない。情報過多のため口コミが信頼されてくる。なので特別な体験がないと口コミにつながらない。収穫だけではなく収穫以外のストーリーや収穫以外の時期の交流や体験が必要になる。口コミの発信元になってくれるファン、サポーターをいかに育てるか。そういう人達に特別な体験(自分にとっての情緒的な価値)を提供できるかが問われる。小値賀島の体験の合言葉は「圧倒的に満足させる」。何も宣伝しなくても広がっていく。

4. 協議事項

(1)進捗状況と今後の進め方 [片桐室長説明]

(2)観光局(仮称)の経営理念等について ["]

(3)地域ブランドについて [間瀬隊員説明]

(質疑) なし

(4)観光局(仮称)の平成30年度事業計画(素案)について

(質疑)

Q)一般社団法人となると、どんな会員で構成するのか、会費は？それが見えてくると本気で考えられる。(大島委員)

Q)収支の中に会費がはいっていないがどうなるのか？(大場敏丈委員)

A)会費の額については現在検討中である。

Q)観光局が設立された場合、観光協会からはどのように業務が移管されるのか？(大場敏丈委員)

A)観光局と町(行政)とに業務を分けることになる。分担については、観光協会及び町と協議して決めっていく。

Q)松川青年の家の収支600万円となっていることについて。(松井委員)

A)現在、観光局が運営主体となることを想定して、整備運営計画(案)を検討している。正式に決定しているものではないが、概算額として仮に数値を入れたものである。

Q)設立について議会で確定するのはいつのタイミングになるか。(大島委員)

A)設立に要する経費を12月補正予算で計上する予定であり、そのタイミングとなる。高砂アドバイザー)個人的には松川町版DMOの主な収入は次のとおりになると思う。

①公共施設の運営(清流苑を含む)②旅行商品の販売③公的な役割(役場の業務委託)それらが95%で残りの5%くらいが会費収入だろう。

(5)平成29年度地方創生推進交付金事業について [片桐室長説明]

(質疑)なし

(6)その他 次回 7月20日(木)15:00-17:00 予定

5. 閉会 [黒沢副委員長]